

海外の話題

オーストラリアのコーヒー文化

Norinchukin Australia マネージング・ダイレクター 澤田 隆一

かれこれ10年以上、毎朝、コーヒーを飲むのが私の習慣となっている。シドニーに赴任してからは、毎朝、オフィスが入居しているビルの一階にあるカフェに立ち寄り、コーヒーを購入するのが日課だ。実はこのコーヒー、日本とはちょっと違ったオーストラリア独自の文化を育んでいる。

まず、コーヒーを注文する時に戸惑うのが、その名称だ。

日本とは全く異なる。例えば、日本のブラックコーヒー的なものを飲みたい時は、“ロングブラック”と注文する。私が毎朝注文しているものだ。日本のブラックコーヒーとは製法が異なり、エスプレッソを熱湯で割ったものだ。同様に、カフェオレ的なものを飲みたい時は、“フラットホワイト”または“ラテ”と注文する。前者がスチームミルクで割ったもので、後者がさらにミルクの泡を加えたものだ。エスプレッソを飲みたい時は、“エスプレッソ”または“ショートブラック”でもいい。イタリア式のエスプレッソがオーストラリアのコーヒーの基本であり、その割り方でコーヒーのバリエーションが出来るという寸法だ。

オーストラリア人のカフェは、個人経営が多い。

米国のスターバックスが2000年にオーストラリアで事業展開を開始し、85店舗を展開したものの、10年足らずで撤退を余儀なくされた。チェーン店的手法が当地では受け入れられなかったらしい。なぜか？カフェは各店、味を競っており、同じロングブラックでも味が全然違う。また、店員と客の距離感も近い。毎日通っている内に名前を覚えられ、注文で並んでいる間にコーヒーが出来ている時もある。メルボルンでは、皆でお気に入りのカフェの話をしだしたら収拾がつかなくなるほど、各人各様の拘りがあるらしい。

余談だが、コーヒーの値段については、3～5豪ドル程度だ。日本のように低価格の100円から高級店の1000円超えといったバリエーションがあるわけではない。

実は、カフェがビジネスシーンで重要な役割を担っている。

オーストラリアで、取引先から「カフェでコーヒー飲みましょう？」と誘われたら、「会議室にしましょう。」と言ってはいけない。部下が「これからコーヒーに行きます！」と言ったら、「頑張ってください」と励ました方がいい。

当地では、ビジネスパーソン間の「コーヒー行きましょう」は「ミーティングしましょう」と同義だ。街を見渡せば、日中、至る所のカフェでビジネスパーソンらしき人たちがコーヒーを手に会話をしている姿が目につく。ビジネスネットワークや非公式なミーティングにカフェが使われているようだ。オーストラリア人は、会議室よりもリラックスな雰囲気のカフェを好み、若干口も軽くなるとのことだ。ひそひそ話をする時は、メモを取ってはいけないという暗黙のルールもあるらしい。

弊社は、豪州のプロジェクトファイナンス貸出の伸張を企図して設立され、昨年9月に営業を開始した。いかに現地ネットワークを強化し、優良な案件をソーシングできるかが課題だ。「郷に入っては、郷に従え」の諺のとおり、営業開始以来、弊社の営業担当職員はカフェに行き、胃袋をコーヒーで満たすのが日課となっている。